

<全体企画概要>

文化庁・令和2年度戦略的芸術文化創造推進事業

「生徒やアマチュアを含む地域の文化芸術関係団体・芸術家によるアートキャラバン」

公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会

1. 事業名：**ライブ・ライブ・フェスティバル**（仮称）

\* 8月20日頃、正式名称を決定の予定です。

2. コンセプト：同じ空間と時間を共有する「ライブ」、そして生命（いのち）の「ライブ」。「ライブ」のある生活を取り戻し、ともに喜び、とことん楽しむ、参加型の全国フェスティバル。

3. 概要：文化芸術団体・文化施設・地域の人々が連携し、劇場を中心に町中の様々な場所でライブを上演。ライブ配信なども活用しながら、様々な立場の人々が、鑑賞・体験・出演・オンラインなど様々な形で参加できる新しい文化芸術体験を全国に展開する。コロナ禍により失われたライブな文化芸術体験の機会と、沈滞した人々の文化芸術の創造、参加、鑑賞への関心と意欲を取り戻すとともに、本フェスティバルを通して「場所」「人」「チャンネル」の連携・拡大を促進し、各地の文化芸術基盤の強化を目指す。

4. 特徴

- ① 【場所】劇場・ホールだけでなく、屋外やユニークベニューを含め、人々が実演に触れる機会を飛躍的に拡充する機会を作る（劇場・ホール、神社仏閣等の文化財、美術館・博物館等の文化施設、公園・街中オープンスペース、ライブハウス・カフェ・レストラン等）
- ② 【人】芸術家・芸術団体と、劇場・音楽堂等の地域文化拠点の連携の機会を作り、市民の芸術体験機会の持続的な充実をねらう。また、各イベントでは、鑑賞のほか、体験プログラムを実施したり、プロ&アマチュア、プロ&民俗芸能、プロ&子供たちなどの実演も組み合わせるなど、できるだけ連携型・参加型とする。
- ③ 【チャンネル】ライブ公演への参加に加え、WEBでのライブ配信、街中・店舗等でのパブリックビューイング、映像コンテンツの二次利用など、文化芸術に触れられるチャンネルの拡充と、収入の多角化を目指す。ライブ配信ではチャット機能などを活用し、観覧者も能動的に参加・発信。屋外公演・無料公演などでは、参加者が当事業のハッシュタグのもと、自由に写真や動画をライブ配信できるようにする。参加者がそれぞれの目線で地域の魅力やライブの楽しさを発見・発信できる仕掛けを作る。
- ④ 【共通(案)】全国のライブ中継をつなげ、フェスティバルとしての一体感を出す。また“バーチャル・ツアー”のような形で地域の魅力もライブ配信し、今後の地域への興味喚起にもつなげる。

5. 場所・時期：全国 25 か所程度で、10 月～2 月を目安に実施。可能であれば、実施時期は集中させるか、バランスよく均し定期性を生み出し、PR 効果の最大化を目指す。
6. 運営イメージ：
  - ・ 各地域では、制作主体を確立（責任主体）。文化施設・芸術団体・地方公共団体等の多様な主体が連携した実行委員会なども可。
  - ・ 地域制作主体から企画提案を受けて実施。
  - ・ 各地域では、子供たち、障がい者、地域芸能団体、アマチュア文化団体などの参画を促す。また、観光事業者や経済団体など多分野での連携に取り組む。また、企画内容は地域の特色を生かしたものも含む（地域芸能、祭り、世界遺産・日本遺産など）
  - ・ 既存の企画を活かし、更なる盛り上げを図る提案も可。
  - ・ 地域制作主体は、企画、制作、広報、公演実施、映像制作・配信などを行う。
  - ・ 社会状況に応じ、無観客配信など柔軟に対応できる企画にする。
  - ・ 都道府県ごとに予算 5000 万を限度とする。
  - ・ 芸団協が事務局となり、全国の制作主体と連携しながら実施。
  - ・ 芸団協事務局は必要に応じて、芸術団体・実演家の派遣のほか、企画、PR、映像配信などの専門家派遣などのサポートを行う。